

映画館、都市部の需要は現在がピークか

JETROの調査によると、ベトナムの映画市場の規模は、興行収入では2013年に5,700万ドルであった。前年比約30%増で急増しており、豊富な人口（9,000万人）、経済成長、また近隣諸国と比較して市場規模が小さいことを理由に、今後も市場が拡大していくことが予想されている。

映画館利用について消費者実態を把握するため、2015年8月、20～30代の若年層を中心にオンラインアンケート調査（男性750名、女性708名、ハノイ・ホーチミン60%、その他40%）を実施した。

最もよく鑑賞する映画ジャンルについて（複数回答）は、全体ではアクション65%、コメディ57%、SF46%の順となった。男女ともにアクションが最も人気だったが、2位以降について、男性ではアドベンチャー58.4%、SF54.7%と続き、女性ではコメディ62.0%、SF36.6%となり、大きな差がみられた。

映画館の利用頻度として、全体では、月に1度以上56%（うち週に1度以上18%）となり、利用者は多いことが分かる。年代別にみると、「月に1度以上」と答えた割合は、20代が61.3%（同20.7%）、30代が54.1%（同11.2%）となり、20代の方が頻繁に利用している。男女別では、男性が57.1%（同21.5%）、女性が56.7%（同15.0%）で、それほど大きな差は見られない。

一方で、昨年と比べた利用頻度について聞いたところ、全体では増加が32%、減少が44%となり、減少と答えた割合が増加を上回った。年代別に見ると、20代では増加が34.0%、減少が43.4%、30代では増加が18.9%、減少が51.0%となっており、30代の方が20代よりも利用頻度が大きく減少している。男女別に見ると、男性では増加が27.7%、減少が43.3%、女性では増加が36.0%、減少が44.4%となっており、男性と比較して女性の方が、利用頻度が増加した人が多かった。

市場拡大が予想されている一方で、都市部若年層を中心とした本調査では、映画館の利用頻度について減少と答えた割合が増加を上回る結果となった。映画館以外にも様々な娯楽施設が増加していることが要因の1つとして考えられる。地方都市において、映画館併設の商業施設が増加していくことにより、ベトナム全国的には需要が増えていくと考えられるが、都市部においては映画館に対する需要は既にピークを迎えているのかもしれない。